

道の駅「アグリステーションなぐら」にて 農産物品評会・即売会が開催されます！

日時：平成30年10月27日（土）
品評会：午前10時～ 即売会：午後1時20分～
場所：道の駅「アグリステーションなぐら」特設会場
北設楽郡設楽町西納庫森田32（道の駅は朝8時から営業）
表彰：愛知県知事賞、設楽町長賞、中日新聞社賞など
品評会にはダイコン、ハクサイ、サトイモなど、30品目以上の
農産物が出品されます。

○農業研修のお知らせ

- ・茶の機能性について
H30.10.30（火）14:30～16:00
- ・カキの樹幹害虫の防除対策について
H30.12.18（火）13:30～16:20
- ・パソコン農業簿記活用
（財務諸表の活用）
H31. 1.23（火）9:00～16:30
- ・ジネンジョの生産安定
H31. 2.19（火）13:30～16:20
- ・女性の活躍推進に向けた働きやすい
環境整備
H30.2月上旬予定

※参加を希望される方は、開催日の
2週間前までに、農業改良普及課へ
お申し込みください。

上記農業研修の開催場所は、いずれ
も農業大学校（岡崎市美合町）です。

お問い合わせだけでも気軽にどうぞ！

新城設楽普及だより

新城設楽農林水産事務所

平成30年度 秋号

農業改良普及課

新城駐在室

北設楽郡設楽町田口字小貝津6-2

新城市石名号20-1

TEL：0536-62-0546

TEL：0536-23-2172

FAX：0536-62-1533

FAX：0536-23-6010

メール（共通）：shinshiroshitara-fukyu@pref.aichi.lg.jp

事務所ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/shinshiroshitara-nourin/>

ネット農業あいち <http://www.pref.aichi.jp/nogyo-keiei/nogyo-aichi/>

「新城設楽普及だより」や「農業情報」が
パソコンやスマホからも見られます！

新城設楽農林水産事務所ホームページの
「管内農業ニュース」では、毎月1報ずつ
新城設楽地域の産地の動きや
イベントなどを紹介しています。
本紙「新城設楽普及だより」も
フルカラーで見ることができます！
「新城設楽 農業ニュース」で
ぜひ検索ください！

新城設楽 農業ニュース

また、愛知県運営の農業関係情報サイト
「ネット農業あいち」では、新城設楽だけで
なく、県内各地の「農業情報」や、新品種・
新技術の紹介記事などを見ることができます。
新規就農者の紹介記事「フレッシュマン」
では、県内各地域のこれからを担っていく
若手農業者を掲載中！
こちらもぜひ見てみてください！

ネット農業あいち

● 新城市の周年ホウレンソウを副知事が視察！ ●

新城市作手地区では夏季冷涼な気候を生か
し、品質の高い「奥三河ほうれん草」を生産
しており、農業改良普及課は技術的支援や新
規栽培者の確保支援などを行っています。

本年度、当地区で「機械収穫の実証と産地
のPR」を目的に「農業生産力パワーアップ
プロジェクト推進事業」に取り組んでおり、
その活動内容の紹介や生産者との意見交換等
を目的に8月22日（水）に、森岡副知事に
よる現地調査が行われました。

意見交換会で生産者は、「新たなホウレン
ソウ産地の歴史を作りたい」、「自分たちの
取組を見た人が新規就農したくなるような経
営を目指したい」など抱負を熱く語っていま
した。副知事は試食したホウレンソウに「う
まいっ！もっと高品質をPRして」と太鼓判
を押し、生産者に経営改善の秘訣を伝授する
とともに、「県内で最もチャレンジ精神に溢
れた生産者に会えた。これからはがんばって
欲しい」とエールを送っていました。



森岡副知事（左）に「新たな歴史を作りたい」と語る生産者代表の竹下さん（右）



副知事（左から2人目）と意見交換をする3名の生産者

新城市の夏秋トマト新規就農者、1年目をがんばってます！

新城市では、「第2次担い手確保育成総合支援計画」に基づき、農業改良普及課始め農業関係機関が役割分担により協力し、新規就農者の確保・育成に取り組んでいます。（公財）農林業公社しんしろの就農研修を受講した3名が、1年間の研修を終え本年3月に就農し、JA愛知東トマト部会作手支部に加入しました。しかも、3名はいずれも市外出身で、非農家出身者です。

「農山漁村振興交付金」を活用し、JAが新設したハウス団地でヤシがら培地耕によりトマト栽培を開始しました。4月中旬の定植以降、農業改良普及課及びJAが初期の樹づくり、施肥管理などの指導を重点的に行った結果、他の生産者と同様に6月中旬から出荷を開始することができました。収穫や誘引作業に追われながらも、7月上中旬、8月中旬の出荷ピークも何とか乗り越えていました。

異常高温など、本年の極端な天候下で草勢管理に苦労しているものの、ほ場管理はうまく出来ているようでした。

また、3名のうち2名は雇用労力確保が課題でありましたが、離れて住む家族の助けや、JAの無料職業紹介所や市の広報誌へ求人広告を掲載する方法で、労力不足を何とか解決できています。

農業改良普及課では、新規就農者の経営安定のために、今後も引き続き支援していきます。



ほ場の状況（8月9日）

赤熟れにさようなら！ブドウ着色講習会を開催！

JA愛知東巨峰部会では、約7.5haで主に種なし「巨峰」を栽培しています。昨年は、「巨峰」を始めとする黒色系品種において、着色期の高夜温や日照不足などの影響で、熟しているのに着色不良となる「赤熟れ」の発生が目立ちました。全部会員へ着色対策を十分浸透させるため、6月14日（木）に着色講習会が開催されました。

講習会では、着色向上に効果のある環状剥皮や葉面散布剤の使用について農業改良普及課から説明した。両技術は着果過多の状態でも効果が薄く、適正な摘果が必要なことなどの注意点を踏まえつつ、実技を交えて部会員の理解を促しました。また、近年増加している中型獣や鳥類の被害防止対策についても説明し、部会員は高品質な果実の生産や今後の出荷に向けて気を引き締めている様子でありました。

農業改良普及課では、今後とも高品質なブドウの生産技術を普及していくことで産地全体の高位平準化を支援していきます。



環状剥皮が実施された「巨峰」

新城設楽地域の4Hクラブと青年農業士会が園児収穫体験交流会を開催！



園児たちと交流を深めるクラブ員（設楽町）



イチゴ収穫体験を楽しむ園児たち（新城市）

新城設楽地域の4Hクラブと青年農業士会は、地域のこども園や保育園の園児を対象に収穫体験交流会を開催しています。子どもたちが地域の農業に興味を持てるように、という思いから行っているこの活動は、イチゴ狩り体験が16年目、ミニトマト狩り体験が9年目を迎えました。

6月19日（火）に、設楽地区青年農業士会と北設楽4Hクラブがミニトマト収穫体験を、開催しました。青年農業士から「真っ赤な実をとるんだよ」と説明があり、園児たちはそれぞれ真っ赤なミニトマトを袋いっぱい収穫し、楽しんでいる様子でした。

6月25日（月）には、新城市4Hクラブがイチゴ収穫体験を開催しました。園児たちは、クラブ員からおいしいイチゴの見分け方について説明を受け、数グループに分かれておいしそうないちごを探しながらお腹いっぱいになるまでイチゴ狩りを楽しんでいる様子でした。

収穫体験の後には交流会が行われ、園児たちはクラブ員らと楽しく触れあっていました。クラブ員からは、「園児たちがこんなに喜んでくれてうれしい」との声が聞かれました。

農業改良普及課では今後も青年農業者による、農業の魅力伝える地域貢献活動を支援していきます。

4Hクラブでは、一緒に学習活動・地域貢献活動を行うクラブ員を募集しています！
加入したい方、興味のある方は、農業改良普及課までお問い合わせください。

設楽産エゴマたっぷり、ソフトクリーム販売開始！

農業改良普及課は、消費者交流と特産物生産による北設地域の活性化を目的に道の駅「アグリステーションなぐら」を運営している名倉高原生産組合の活動を支援しています。

昨年、アグリステーションなぐらで、期間限定販売し好評であった「えごまソフトクリーム」を、今夏から定番化するために作業手順やレシピを再検討し、作業性・味に問題ないことを確認し、7月20日（金）から販売を開始しました。

「えごまソフトクリーム」は、地元で収穫されたエゴマで醤油ベースのシロップを作り、ソフトクリームにかけたものです。また、農業改良普及課ではPRのためのポスター作成支援により店内に掲示しました。

多い日には10個/日以上販売数量で、お客さんからの評価は良いようです。

今後も農業改良普及課は、名倉高原生産組合の地域農産物を活用した商品の開発のための支援を行っていきます。



えごまソフトクリーム